

# 中学校国語

## 指導のポイント

単元で取り上げる指導事項に基づいて、単元の目標を設定し、その目標を実現するために適した言語活動を位置付け、課題解決の過程を重視した単元を構想しましょう。

## 評価のポイント

評価規準に基づいて、どのような生徒の記述または発言があれば「おおむね満足できる」状況と評価できるのかについて、言語活動を通じた具体的な生徒の姿を想定しておくことが大切です。

## 1 国語科における「内容のまとまりごとの評価規準」

学習指導要領の目標や内容を踏まえ、以下のように「内容のまとまりごとの評価規準」を設定します。国語科においては、基本的に「内容のまとまりごとの評価規準」が単元の評価規準となります。

### 知識・技能

基本的に、当該単元で育成を目指す資質・能力に該当する〔知識及び技能〕の指導事項について、その文末を「～している。」として、「知識・技能」の評価規準を作成します。

### 思考・判断・表現

基本的に、当該単元で育成を目指す資質・能力に該当する〔思考力、判断力、表現力等〕の指導事項について、その文末を「～している。」として、「思考・判断・表現」の評価規準を作成します。  
評価規準の冒頭には、当該単元で指導する一領域を「(領域名を入れる)において、」と明記します。

### POINT

「知識・技能」と「思考・判断・表現」のどちらの観点においても、育成したい資質・能力に照らして、指導事項の一部を用いて評価規準を作成することもあります。



### 主体的に学習に取り組む態度

下記の四つの内容を全て含め、単元の目標や学習内容に応じて評価規準を設定します。

- ①粘り強さ(積極的に、進んで、粘り強く等)
- ②自らの学習を調整(学習の見通しをもって、学習課題に沿って、今までの学習を生かして等)
- ③他の2観点において重点とする内容(特に粘り強さを発揮してほしい内容)
- ④当該単元の具体的な言語活動(自らの学習の調整が必要となる具体的な言語活動)

第1学年〔思考力、判断力、表現力等〕「C 読むこと」

単元に位置付ける言語活動:「少年の日の思い出」を読んで、表現の効果について解説する活動(C(2)イ)

#### 評価規準の例

**積極的に 文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考え、学習課題の見通しをもって 解説しようとしている。**

①粘り強さ

③他の2観点において重点とする内容

②自らの学習を調整

④当該単元の具体的な言語活動

## 2 単元の評価規準の作成の手順

国語科においては、次のような流れで授業を構想し、単元の評価規準を作成していきます。まずは、本単元で取り上げる指導事項を確認することからはじめましょう。

### STEP1

単元で取り上げる指導事項の確認

### STEP1

年間指導計画を基に、単元で取り上げる指導事項を確認します。

### STEP2

単元の目標と言語活動の設定

### STEP2

「単元の目標」の設定について

○〔知識及び技能〕、〔思考力、判断力、表現力〕の目標は、基本的に、指導事項の文末を「～ができる。」として示します。

○「学びに向かう力、人間性等」の目標は、いずれの単元においても、学年の目標の「言葉がもつ価値～伝え合おうとする。」までを示します。

### STEP3

単元の評価規準の設定

「言語活動」の設定について

○単元の目標を実現するために適した言語活動を、言語活動例を参考に具体化します。

### STEP4

単元の指導と評価の計画の決定

**言語活動を通して指導するのが国語科の目標であり、単元を構成する上での大原則です。**

### STEP5

評価の実際と手立ての構想

### 3 単元における指導と評価の例

事例 第2学年「C 読むこと」(文学的な文章)

単元名 「走れメロス」で描かれている表現の効果を考えよう～(走れメロス)

#### □単元の目標

- (1) 抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、多義的な意味を表す語句などについて理解することができる。 [知識及び技能](1)エ
- (2) 文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉えることができる。 [思考力,判断力,表現力等]C(1)ア
- (3) 観点を明確にして文章を比較し、文章の構成や表現の効果について考えることができる。 [思考力,判断力,表現力等]C(1)エ
- (4) 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。

「学びに向かう力,人間性等」

#### □単元に位置付ける言語活動

作品を比べて読み、物語の展開と表現の効果について考えたことを伝え合う。 関連:[思考力,判断力,表現力等]C(2)イ

#### □単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、多義的な意味を表す語句などについて理解している。(1)エ	①「読むこと」において、文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉えている。(C(1)ア) ②「読むこと」において、観点を明確にして文章を比較し、文章の構成や表現の効果について考えている。(C(1)エ)	①積極的に表現の効果について考え、学習課題に沿って伝えようとしている。

#### STEP 3

前ページの作成の仕方を参考に、単元の評価規準を作成します。

#### STEP 4

各時間の具体的な学習活動を構想し、単元のどの段階でどの評価規準に基づいて評価するかを決定します。

#### □指導と評価の計画

時	学習活動	評価規準・評価方法等
1 2	○「走れメロス」と「人質」を読んで相違点や疑問点を整理し、学習計画を立てる。	
3 4 5	○「走れメロス」の登場人物の設定の仕方の特徴について考える。  ○書き加えられた内容を基に、物語を印象付けている表現とその効果について考える。	[思考・判断・表現①]ワークシート ・登場人物の描かれ方と特徴について、物語の展開を踏まえてまとめているか確認する。  [知識・技能]ワークシート ・新たに書き加えられた描写に着目し、物語の文脈上の意味を捉えているか確認する。  [思考・判断・表現②]ワークシート ・表現の効果について、物語の展開と結び付けて考えをまとめているか確認する。
6	○「走れメロス」に込められた作者の意図や表現の効果について交流する。	[主体的に学習に取り組む態度]観察・ノート ・「人質」と比較した「走れメロス」の表現のよさを伝えようとしているか確認する。

#### POINT

- ここでは、評価する時間と評価方法、そして、「おおむね満足できる」状況(B)の例を示しています。
- 評価計画に当たっては、どの時間に何を評価するかを整理しましょう。必ずしも毎時間の評価を記録に残すわけではありませんので、内容や時間のまとまりで計画することが大切です。



#### □実際の学習評価例

【思考・判断・表現②】については、生徒が、表現の効果と物語の展開を結び付けて考えをまとめている姿を「おおむね満足できる」状況(B)と捉え、ワークシートの記述から評価することとした。

#### STEP 5

それぞれの評価規準について、実際の学習活動を踏まえて、具体的な生徒の姿を想定します。

#### POINT

- 生徒の「おおむね満足できる」状況(B)を想定して、あらかじめ教師が書いてみるのが大切です。そうすることで、指導と評価のポイントが明確になります。
- 「努力を要する」状況(C)となってしまう生徒には、具体的な支援が必要です。どのようなつまずきが考えられるかを想定して、支援の方策を計画しておきましょう。



Tさん



「一人の少女」の登場による「勇者はひどく赤面した。」という表現は、冒頭の「メロスは激怒した。」と対照的で、様々な苦難を乗り越えながら走りぬいたメロスの行動により、怒りや悲しみのあふれる町が平和な状態へ変容したことを強調する効果がある。

結末の描写に着目し、「メロス」の行動や町の変容と結び付けながら、表現の効果を捉えている。

このことから、表現の効果と物語の展開を結び付けて考えをまとめている」と捉え、「おおむね満足できる」状況(B)とした。

Nさん



「赤く大きい夕日」という情景描写によって、セリヌティウスを助けるために最後まであきらめずに走っているメロスの「正義感」がさらに強調されている。

情景描写について触れてはいるが、物語の展開と結び付けて効果を捉えていないことから、「努力を要する」状況(C)とした。

そこで、赤で表現されている他の描写にも着目させ、「赤」が物語にどのような印象を与えているか考えさせるようにした。